# 国際理解教育/開発教育　学習指導(活動)案

【実践者】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業者氏名 | 杉村　萌 | 学校名 | 音更町立木野東小学校(北海道) |
| 教科(科目)・領域 | 国語科<br>総合的な学習の時間 | 対象学年(人数) | 3年1組(35名)　3年2組(35名)<br>計70名 |
| 実践年月日もしくは期間(時数) | | 令和7年10月～12月(18時間) | |

【実践概要】

1. 単元名(活動名): くらしと絵文字～世界の人につたわるように

2. 実践する教科・領域
・国語科(14 時間)
・総合的な学習の時間(4 時間)

3. 学習領域

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| A 多文化共生 | 文化理解 | 文化交流 | (多文化共生) | |
| B グローバル社会 | 相互依存 | 情報化 | | |
| C 地球的課題 | (人権) | 環境 | 平和 | 開発 |
| D 未来への選択 | 歴史認識 | (市民意識) | (社会参加) | |

4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)
・さまざまな場所で使われている絵文字(ピクトグラム)について、その役割や意図を理解するとともに、言葉の壁を越えて伝えられるというよさに気付くことができる。(国語科)【知識・技能】(1)ア
・災害が起きたときに、だれもが安全に避難できるよう、必要な情報を読み取り、伝えるための防災絵文字を作成することができる。(国語科)【思考・判断・表現】A(1)オ(話すこと・聞くこと)
・防災絵文字を作成する活動を通して、積極的に互いの考えを伝えようとしている。(国語科)【主体的に学習に取り組む態度】
・防災絵文字を作成する活動を通して、外国人が住む地域の実態、在住外国人や在住外国人を支援する人々の思いについて理解し、地域の一員として異なる文化を越えた共生の在り方を考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。(総合的な学習の時間)【国際理解】

5. 単元の評価規準

| | |
|---|---|
| ①知識・技能 | ・言葉や絵文字には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア(国語科)<br>・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報との関係について理解している。(2)ア(国語科)<br>・在住外国人が抱える災害に対する困り感を知り、絵文字は、暮らしを便利にするだけでなく、災害時においても大きな役割を果たすことに気付く。(総合) |
| ②思考・判断・表現 | ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C 読むこと(1)オ)(国語科)<br>・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A 話すこと・聞くこと(1)オ)(国語科)<br>・単元を通して学んだ自らの思い、学びによる自己の変容を生かして防災絵文字を紹介している。(総合) |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | ・進んで絵文字(ピクトグラム)のよさについて考え、話し合い、防災絵文字について互いの考えを伝えようとしている。(国語科)<br>・防災絵文字を作成するために、互いの考えを認めながら、協力して課題を解決している。(総合) |

6. 単元設定の理由・単元の意義
【単元設定の理由あるいは単元の意義】
本単元は、児童が身近な絵文字(ピクトグラム)の学習を深め、それを多文化共生社会の構築という現代的な課題に結びつけることを目的としている。

少子高齢化が進む日本において、外国人労働者および外国人住民の増加は全国的な傾向であり、地域住民としての多文化共生は急務である。(参考資料参照)本校が位置する十勝地方も例外ではなく、十勝全体で約 4,000 人、音更町だけでも 21 カ国 227 人(2025 年 4 月時点)の外国人が暮らしている。このような社会変化に対し、未来の創り手である子どもたちは、受け身で対応するのではなく、多様な背景を持つ人々と主体的に関わり、協働しながらよりよい社会を創り出す力が求められている。

多文化共生社会の早急な課題の一つに、多言語に対応した「情報提供体制」の整備が挙げられる。特に「災害時の緊急情報」は、日本語が不十分な外国人にとって理解が難しく、命や安全に直結する重大な問題である。十勝地域在住の外国人からも、災害に対する不安や、国による防災意識の違いから生じる課題が明らかになっている。また本校は、指定緊急避難場所、緊急貯水槽の設置場所であり、災害時には在住外国人を含む多様な人々が避難する。こうした地域の実態と喫緊の課題を受け、本単元では「防災」の視点からゴールを「言葉がわからなくても、だれにでも伝わる防災絵文字を作ろう」とし、多文化共生について考えていく。本単元を通して、言葉の壁を越えて情報を伝える重要性や、相手の立場に立って考える想像力を育んでいきたい。また学習の成果を地域社会につなげることで、多様な背景を持つ人々が互いに助け合い、安心して暮らせるよりよい社会を築くための第一歩としたい。

【児童観】

本学級の児童は好奇心旺盛で、友達との関わりを通して、考えを伝える力、受け入れる力が伸びてきている。グループ活動にも意欲的で、協調性が育ってきている一方、自己表現の難しさや、周りの気持ちに気付かず行動してしまう場面もある。国際理解の視点では、外国語活動や、外国にルーツをもつ児童、ALT との交流を通し、異文化への興味・関心が高まり、多様な価値観に触れる機会も増えている。一方で、言葉や文化の違いに戸惑いを示す児童もいる。これらの実態を踏まえ、本単元では「文化や言語の壁を越えて人とつながる喜び」や「相互理解・尊重」の大切さを実感させたい。そして、多様な背景を持つ人々との共生社会の実現に向けた、主体的な一歩を踏み出すきっかけとしたい。

【教材観】

本単元は、児童が身の回りにある絵文字(ピクトグラム)の役割を理解し、言葉の壁を越えて情報を伝えることの価値を学ぶ単元である。

多文化共生の視点から見ると、多様な背景をもつ人々が共に暮らす現代社会において、くらしのあり方を考える上で非常に重要である。本単元のまとめの段階では、防災絵文字の作成を行い、言葉が通じない相手にどうすればわかりやすく情報を伝えられるかを考えることは、他者の立場に立って考える想像力を育むと考える。また、防災絵文字の作成をグループ活動で行うことで、互いの考えを認め、協力して課題を解決する力を養いたい。本単元を通して、言葉による見方・考え方を働かせ、言葉や文化の違いを受け止め、助け合うことの大切さに気付かせたい。

【指導観】

本単元は、「防災」と「多文化共生」という二つの視点から、児童が住む音更町の課題を自分事として捉えることを目指している。導入では、国語科教材「世界の人につたわるように」より、身近な絵文字やピクトグラムが世界共通の伝達手段であることを理解させる。また世界と日本の絵文字を比較することで、共通点と相違点に気付かせ、興味を高めていく。続く「くらしと絵文字」では、絵文字の特長を深く読み取り、現代社会における絵文字の役割について考察を深めていく。その後、学習を社会の現状へと広げ、在住外国人の増加という日本の状況と、彼らが災害時に抱える「困り感」に焦点を当てる。この問題の解決手段として絵文字(ピクトグラム)が果たす役割に気付かせ、多文化共生社会の構築に不可欠であることを、JICA 教材や参加型学習を通して実感させていく。

さらに、地域で在住外国人支援を行う企業の方から直接話を聞く機会を設けることで、この課題が自分たちにとって身近な地域課題であることを認識させていく。この実践を通して、児童に他人事ではないという当事者意識をもたせたい。学習のまとめとして、児童はグループで「言葉がわからなくても、だれにでも伝わる防災絵文字」を作成する。この協働作業を通じて、課題解決力や相手の立場に立つ想像力を育んでいきたい。作成プロセスでは、在住外国人からのアドバイスを受けたり、完成作品を音更町役場危機対策課に見ていただいたりといった、社会と直接つながる機会を設定する。これにより、自分たちの活動が実際に誰かの役に立ち、地域社会の一員であるという強い意識をもたせたい。本単元を通して、児童が多文化共生社会の実現に向け、地域で「できること」を見つけ、行動する第一歩となることを目指していく。

7. 単元計画(全18時間:国語科14時間・総合的な学習の時間4時間)

| 時間 | ねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|---|---|---|
| 1 | ゴール①絵文字は暮らしの中でどのように使われているか知ろう。 | | ・教科書<br>・絵文字(ピクトグラム)の資料<br>・ピクトグラムかるた |
| | 国語「世界の人につたわるように」 | ・地域にある看板や道路標識など、絵文字が使われている場面や場所を思い出す。 | |

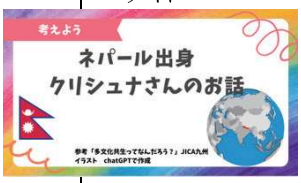
| | | | |
|---|---|---|---|
| | ○教材「世界の人につたわるように」を読み、学校や街中にどんな絵文字（ピクトグラム）があるのかを知る。 | ・教科書の写真や提示した資料から、どこに、どんな絵文字があるのか、またその絵文字の意味について話し合う。<br>・「ピクトグラムかるた」に取り組み、絵文字はどんな困ったことを解決するのかを考える。 | （日本規格協会）<br> |
| 2 | 国語「世界の人につたわるように」<br>○日本と外国の絵文字を見比べることを通して、絵文字は言葉の壁を超えて伝えたいことが伝えられるよさに気付く。 | ・教科書の写真や提示した資料から、日本と世界の絵文字の意味について話し合う。<br>・日本と世界の絵文字を見比べて、共通点や相違点について話し合う。<br>（色、形などのピクトグラムのルール） | ・教科書<br>・ロイロノート<br>・教師海外研修（ザンビア、ドバイ）で撮影した絵文字・ピクトグラム<br>・大阪万博の絵文字・ピクトグラム<br>・他国の絵文字・ピクトグラム<br>・ピクトグラムのルール（日本規格協会）<br> <br> |
| | ・教師海外研修（ザンビア、ドバイ）、大阪万博での絵文字・ピクトグラム<br>①トイレ<br>＜ザンビアのケンタッキー＞ ＜ドバイ空港＞ ＜音更町役場＞ ＜万博＞<br> <br>②交通標識<br>＜ザンビア＞＜日本＞ ③非常口＜ドバイ空港＞ ＜日本＞<br> | | |
| | | ・生活の中にある絵文字について、調べる。<br>（ピクトグラムのルールを確かめる） | |
| 3・4 | ゴール②絵文字の役割について知ろう。<br>国語「くらしと絵文字」<br>○教材名といざないの言葉を読み、絵文字に役割について考えるという学習の見通しをもつ。<br>○本文の内容の大体を捉え、3つの大きなまとまりに分ける。 | ・絵文字がどこで使われているかなど、日常生活を想起させながら、学習への意欲や関心を高める。<br>・本文を3つの大きなまとまりに分け、見出しを考える。<br>・校内で絵文字を探す。 | ・教科書 |
| 5・6・7 | 国語「くらしと絵文字」<br>○絵文字の特長を詳しく読み、要点を短くまとめる。<br>○絵文字の特長をまとめ、段落相互のつながりを踏まえながら、読む。 | ・絵文字の第一・第二の特長について、中心となる文とそれを説明する文を見つけ、短くまとめる。<br>・絵文字の第三の特長について、中心となる文とそれを説明する文を見つけ、短くまとめる。 | ・教科書<br>・ワークシート<br>・大阪万博の絵文字・ピクトグラム<br>・大阪万博フードピクト<br>・東京オリンピックの開会式動画<br>・動物園のマーク（金沢動物園）<br>・本校の避難場所<br> |
| | ・大阪万博の絵文字・ピクトグラム<br>①ゴミ箱 ②案内表示 ③フードピクト<br> | | |
| | | ・まとめを読み、「これからのわたしたちのくらし」と「絵文字の役割」についてまとめる。 | |
| 8<br>本時 | 総合「ともに生きる」<br>○在住外国人が増えているという日本の現状から、在住外国人が | ・在住外国人が日本や音更町にも増えていることを知る。<br>・「多文化共生ケーススタディ」から在住外国 | ・「つながる世界と日本」JICA 教材<br>・NHK 北海道 NEWS |

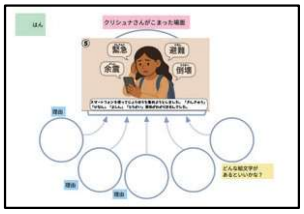
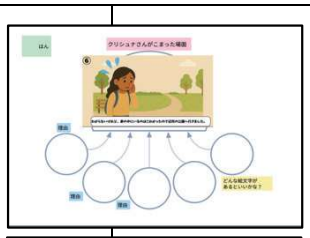
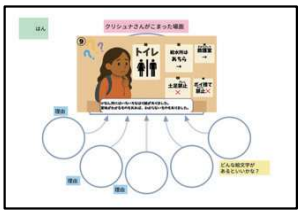
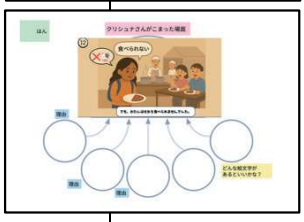
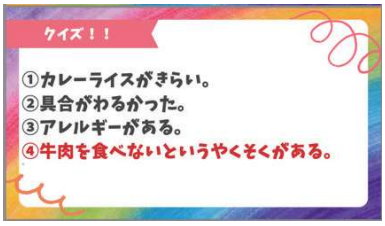
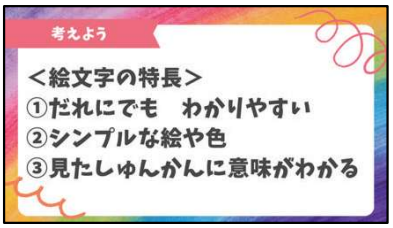
| | | | |
|---|---|---|---|
| | 抱える災害に対する困り感を知り、絵文字は暮らしを便利にするだけでなく、災害時においても大きな役割を果たすことに気付く。 | 人が災害時困っていることについて考え、話し合う。<br>・ゴール「防災絵文字を作る」につなげる。 | WEB<br>・「多文化共生ってなんだろう？」(JICA 教材)<br>・ワークシート |
| 9<br>出前授業 | 総合「ともに生きる」<br>〇地元の在住外国人に対してサポートしている企業の方からのお話を聞き、防災絵文字作成にあたってのヒントを得る。 | ・多文化共生に向けての取組を知る。<br>・在住外国人にどのような「防災」を伝えているのかを知る。<br>・絵文字・ピクトグラムについて、活用の実際を知る。<br>・やさしい日本語の役割について知る。 | ・講師　杉山絵理さん(にほんごさぽーと北海道)<br> |
| 10 | ゴール③防災絵文字を作ろう。<br>国語「わたしたちの絵文字」<br>〇「言葉がわからなくても、だれにでも伝わる防災絵文字を作る」という学習のねらいをつかみ、見通しをもつ。 | ・これまでの学習を想起し、学習のねらいをつかむ。<br>・十勝管内在住外国人のインタビュー動画から、災害時の困り感を知る。<br>・学習計画を立てる。 | ・教科書<br>・これまで活用した絵文字やピクトグラムの資料<br>・十勝管内在住外国人のインタビュー動画 |
| 11 | 国語「わたしたちの絵文字」<br>〇絵文字の特長を理解して、絵文字にする必要のある場所・場面を選ぶ。 | ・これまでの学習を想起し、絵文字にする必要のある場所・場面の候補を考える。<br>・場所・場面を決める。 | ・教科書<br>・これまで活用した絵文字やピクトグラムの資料<br>・十勝管内在住外国人のインタビュー動画<br>・ワークシート |
| 12 | 国語「わたしたちの絵文字」<br>〇教科書を読んで、話合いの進め方を確認し、役割や話合いの仕方について理解する。 | ・教科書から「役割」、「話合いの進め方」を読み、それぞれの役割について知る。<br>・教科書から話合いの仕方を知り、話合いのイメージをもつ。<br>・役割分担をする。<br>・話合いの練習をする。 | ・教科書<br>・ワークシート<br>・ロイロノート |
| 13・14 | 国語「わたしたちの絵文字」<br>〇役割を意識して、「言葉がわからなくても、だれにでも伝わる防災絵文字を作る」というねらいにそった話合いをする。 | ・「どのような場所・場面か」、「絵文字のデザイン」、「色や背景について」の3つのポイントから話し合う。<br>・話合いを振り返る。<br>・話合いをもとに、絵文字を作成する。 | ・教科書<br>・ワークシート<br>・ロイロノート |
| | 作成した「防災絵文字」を在住外国人に見てもらい、アドバイスをもらう。 | | |
| 15 | 国語「わたしたちの絵文字」<br>〇役割を意識して、「言葉がわからなくても、だれにでも伝わる防災絵文字を作る」というねらいにそった話合いをする。 | ・アドバイスをもとに、どの部分を修正するか話し合う。<br>・話合いを振り返る。<br>・話合いをもとに、絵文字の修正をする。 | ・教科書<br>・在住外国人によるアドバイス(動画 or 手紙)<br>・ワークシート<br>・ロイロノート |
| 16・17 | 総合「ともに生きる」<br>〇完成した「防災絵文字」の紹介動画を作成する。 | ・「どのような場所・場面か」「デザインの工夫」「色や背景について」を踏まえて作成した防災絵文字の紹介動画を撮影する。 | ・ロイロノート |
| | 「防災絵文字紹介動画」を在住外国人、音更町役場危機対策課に見てもらい、感想や意見をもらう。 | | |
| 18 | 国語「わたしたちの絵文字」<br>〇みんなで考えた絵文字を交流し、単元全体を振り返る。 | ・互いの完成した「防災絵文字」の紹介動画を見合う。<br>・在住外国人、役場危機対策課のメッセージを見る。<br>・学習全体を振り返り、できるようになったことや考えたことを確かめる。 | ・ロイロノート<br>・在住外国人や役場からのメッセージ(動画 or 手紙) |

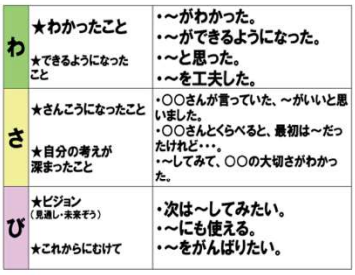
8. 本時の展開（概略） 8／18

本時のねらい：

在住外国人が増えているという日本の現状から、在住外国人が抱える災害に対する困り感を知り、絵文字は、暮らしを便利にするだけでなく、災害時においても大きな役割を果たすことに気付く。

| 過程・時間 | 教師の働きかけ・発問および学習活動 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（5 分） | ○前時までの確認<br><br>○在住外国人が日本や道内、音更町でも増えていることを知る。<br>T「日本人が減っている一方で、外国人が増えています。北海道は特に、減っている日本人が最も多くて、外国人がすごく増えています。」<br><br>○課題の提示<br>T「私たちが暮らす音更町には、日本語をあまり上手に話せない外国の人たちもいます。もし、大きな地震や台風が来たとき、言葉が通じない人たちに、大切な情報をどうやって伝えたらよいだろう？」<br>T「今日は、災害時の絵文字の役割について考えていきましょう。」<br><br>課題：絵文字は、災害が起きた時にどんな役わりをもつのだろう？ | ・振り返りのコメントをいくつか提示。<br><br>・音更町は2024年1月214人<br>2025年4月227人（役場） | ・「つながる世界と日本(ヒト編)」（JICA 教材）<br><br>・NHK 北海道 NEWS WEB（スライドにて提示） |
| 展開<br>（30 分） | ○「多文化共生ケーススタディ」から在住外国人が災害時困っていることについて考え、話し合う。（グループ活動）<br>T「今から日本で暮らす、ネパールから来たクリシュナさんのお話を読みます。皆さんはクリシュナさんがどんなことに困っているか考えながら聞きましょう。」<br><br>○あらすじを簡単に確認する。<br><br>○困ったと思う場面のイラストを選ぶ。<br>T「クリシュナさんが地震の時に困った場面はどこだと思いますか？」<br> <br> <br> <br> <br>「⑤かな。「避難」「緊急」意味がわからなかったと言っているよ。」<br>「⑥。どこに行けばわからなくて困っているよ。」<br>「⑨。わからない張り紙もあったよ。」<br>「12。カレーライスを食べられないと言っているよ。」<br><br>○困った理由を話し合う。<br>T「どうしてその場面が困ったと思いましたか？理由を話し合いましょう。」<br>○ワークシートに書き込む。 | ・『ケース2災害時の避難所にてネパール出身・クリシュナさんの場合』<br>・児童の実態を踏まえ、紙芝居形式にしたものを読み聞かせる。（chatGPT で作成）<br><br>・黒板に挿絵を掲示する。<br><br>・困ったと思う場面のイラストを黒板に掲示する。<br><br>・グループで話し合わせる。<br>・児童の発言を黒板に板書する。 | ・「多文化共生ってなんだろう？」（JICA 教材）<br>・ワークシート<br>・スライド<br>  <br><br><br>・ワークシート（クラゲチャート） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ○話し合ったことを発表し合う。<br>「⑤スマホを見ても、書いてある言葉の意味がわからなかったと思う。」<br>「⑥家にいるのは怖かったんじゃないかな。」<br>「⑥どこに行けばいいかわからなかった。町のこともあまりよく知らないんじゃないかな。」<br>「⑨張り紙に書いてあることがわからなかった。日本語が読めないんじゃないかな。」<br>「12 お腹が減っていても、食べられないから困っていると思う。」 |  <br>  <br>  <br>  | |
| | T「クリシュナさんは、なぜ用意されたカレーライスを食べることができなかったと思いますか？」<br><br>「カレーが嫌いだったんじゃないかな。」<br>「アレルギーがあったのかも。」<br>「ヴィーガンなんじゃないかな。」<br><br>T「クリシュナさんはヒンドゥー教という宗教を大切にしています。宗教は、心のよりどころのようなものです。神様や、命の大切な考え方を教えてくれる、昔からある大切な教えです。」<br>T「クリシュナさんが大切にしているヒンドゥー教では、牛をとても大切な生き物として考えています。そのため牛肉を食べないという約束を守って暮らしています。」<br>T「アレルギーで食べられない、だけでなく、宗教によって食べられない人もいるのです。」 | ・クイズ形式で考えさせる。<br>・ネパールはヒンドゥー教を信仰している人が多いこと、牛肉は食べられないことについて触れる。<br>・宗教については、ここでは簡単に触れることにとどめる。<br>  <br> | |
| | ○これまでの学習を想起し、絵文字の特長から表せられそうな場面・場所を考える。<br>T「クリシュナさんの困った！を絵文字で解決できないかな。絵文字があるといい場面・場所はどこだろう？」<br><br>「⑤避難、緊急も絵文字にすると伝わるんじゃないかな。」<br>「⑥避難所を案内する絵文字があるといい。」<br>「⑨救急バッグの絵文字があるといいな。」<br>「12 牛肉が入っていることを表す絵文字。」<br><br>○話し合ったことを発表し合う。<br><br>○本時のまとめ<br>T「たくさんの考えがでましたね。今日の学びをまとめましょう。」 | ・グループで話し合わせる。<br>・児童が「かわいそう」という気持ちをもって終わるのではなく、「じゃあ、どうすればクリシュナさんのような思いをする人がいなくなるか？」と共感から解決策へつなげられるようにする。<br>  <br> | ・ワークシート<br>（クラゲチャート） |
| | まとめ：絵文字は、わたしたちだけでなく、災害で困っている外国の人を助ける、大切な『命のメッセージ』になる。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| まとめ<br>(10 分) | ○振り返り<br>T「今日の学習を通して感じたこと、考えたことについて振り返ろう。」<br>「絵文字は災害の場面でも役に立つことがわかった。」<br>「絵文字は外国の人にも伝えられることがわかった。」<br>「絵文字は命を守る。」<br>「次は、実際に絵文字を考えてみたい。」<br><br>○最終ゴールである「防災絵文字を作る」につなげる。 | ・「わ・さ・び」の視点で振り返る。<br>  <br>わ ★わかったこと ★できるようになったこと ・～がわかった。 ・～ができるようになった。 ・～と思った。 ・～を工夫した。<br>さ ★さんこうになったこと ★自分の考えが深まったこと ・○○さんが言っていた、～がいいと思いました。 ・○○さんとくらべると、最初は～だったけれど・・・。 ・～してみて、○○の大切さがわかった。<br>び ★ビジョン（見通し・未来ぞう） ★これからにむけて ・次は～してみたい。 ・～にも使える。 ・～をがんばりたい。 | ・ワークシート |

| |
|---|
| 9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）<br>・在住外国人が抱える災害に対する困り感について、話し合う活動を通して他者への共感を示そうとしている。<br>・在住外国人が抱える災害に対する困り感について、絵文字は災害時において役立つことに気付いている。<br>（行動観察、発言、ワークシート） |
| 10. 学習方法および外部との連携<br>＜学習方法＞<br>・ピクトグラムかるた（日本規格協会グループ）<br>・フォトランゲージ<br>・グループワーク（話合い活動）、シンキングツール（クラゲチャート）を活用し、出た意見を可視化。<br>・単元のまとめとして、防災ピクトグラムの作成、紹介動画作成<br>＜外部との連携＞<br>・にほんごさぽーと北海道　代表：杉山絵理さん　に出前授業でお話ししていただく。<br>・十勝管内在住の外国人の方々にインタビューをし、インタビューの様子を録画、また児童が作成した防災絵文字に対して助言・コメントをもらう。<br>・音更町役場　危機対策課に児童が作成した絵文字を紹介する。 |
| 11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み<br>・校内の先生方に研修内容や資料の共有や授業公開をする。<br>・学級通信や児童の成果物等で、学びの姿を保護者に発信する。<br>・SDGs の視点を他教科に広げる。 |

【自己評価】

| |
|---|
| 12. 苦労した点<br>・単元計画において、国際理解/開発教育のねらいと教科目標のねらいの整合性を図ることである。汎用性という観点から教科の既存単元を取り上げたが、どのように関連付けるか、ゴールをどこにするか非常に悩んだ。<br>・教材の選定や精査に悩んだ。45分間という限られた時間の中で何を取り上げるか決めるのに時間を要した。また、教材は児童の実態に合わせるため、chatGPT を活用して紙芝居を作成することにした。しかし、AI とのやりとりがなかなかうまくいかず、完成には時間がかかった。 |
| 13. 改善点<br>・本時で使用したワークシートがグループ活動を進める上では小さかった。全員が話合いに参加しやすくするためにワークシートを大きくする必要があった。<br>・「絵文字があるといい場面・場所」を考える際に、文字ではなく絵で表す児童が多かったことから、一人一人が描き表せるよう、ワークシートを工夫する必要がある。また、児童が描いた絵文字を全体交流で取り上げることができなかった。実物投影機や写真を撮ってテレビに映すなど、共有を図る必要があった。<br>・紙芝居形式としたが、留学生や JICA の研修生などに協力してもらい、本物を取り上げる工夫も必要。<br>・1時間の中で盛りだくさんの内容であったので、取り上げる題材を絞る、または単元計画を見直して実施することも必要だと感じた。 |
| 14. 成果が出た点<br>・18時間という長い単元計画ではあるが、系統立てて単元のねらいに丁寧に迫れていると感じている。<br>・児童とゴールを共有することで、何を学ぶか児童が見通しをもって取り組めており、学びの連続性に繋がった。<br>・本時では、教材を紙芝居形式で取り上げることで視覚的理解を促すことになり、その後のグループ活動では積極 |

的な交流が見られた。
・本時で絵文字を考える活動の際に、英語、ネパール語、日本語を添えようとする児童の姿が見られた。次時の出前授業で取り上げる「やさしい日本語」やその後の「防災絵文字作り」につながる反応が得られたことから、単元構成が児童の学びに沿って有効的に繋がっていると感じた。

15. 学びの軌跡（児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど）

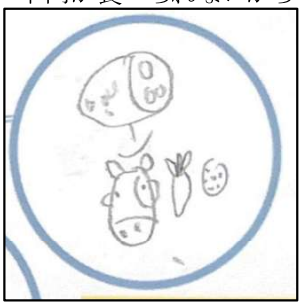
＜本時の板書＞

＜本時のワークシート（一部）＞（困っている理由、どんな絵文字があればよいか）

⑤なんだこの言葉は？
この漢字なんて読むの？
だれか教えて。

⑨なんだろうこの文字？
どこに行けばいいかわからない

12 アレルギーがあるから
宗教、ヴィーガン
牛肉が食べられないから

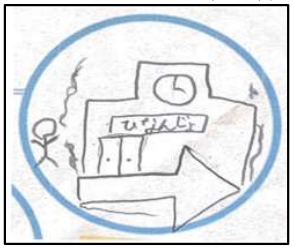


＜本時の振り返り（一部）＞
・絵文字は人が案内とかしなくても、見ただけでわかるということがわかった。
・絵文字は外国人にもわかりやすいからどこでも使える。
・絵文字が命を守ってくれることを初めて知った。
・日本語がわからない外国人の人でも、絵文字を使えば命も守ることができることがわかった。
・絵文字がすごく役に立つことがわかりました。
・絵文字があると耳が聞こえない人も、違う出身の人でも意味がわかる。絵文字があると、安心して暮らせる。
・ちゃんと外国人もわかるように、絵文字が増えていることがわかりました。
・やっぱり外国人や耳が聞こえない人、目が見えない人がいるからこそ、絵文字やスピーカーがあるといいと思う。
・考えてみれば、いっぱい絵文字を作れることがわかった。これからも、いろいろな絵文字を考えたいと思いました。

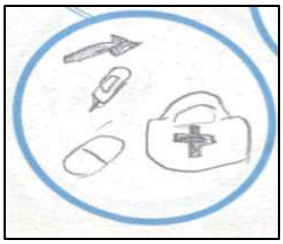
16. 授業者による自由記述

①本時の次時にあたる出前授業では、にほんごさぽーと北海道の杉山さんを講師に招き、音更町の在住外国人の実態や、多文化共生の意味、やさしい日本語についてお話していただいた。特にやさしい日本語では、①短く言う、②難しい言葉は使わない、③ゆっくり・はっきり話す（書く）の3つのポイントを教えていただき、本時で児童が作成した絵文字に添えるやさしい日本語を考える活動を行うなど、その後の防災絵文字作りにつながるヒントをたくさんいただくことができた。

＜ワークシートより（一部）本時で考えた絵文字にやさしい日本語を添えたもの＞



・ここににげてください。
・こっちがひなんじょです。
・ここはあんぜんです。
・じぶんのいのちをまもれます。



・けがをした人はこちらへ。
・てあてできます。
・ここは小さなびょういん。
・けがをなおせます。

＜出前授業振り返り（一部）＞
・外国人には、やさしい日本語だと、外国人につたわるのがわかった。
・外国人にもわかるようなやさしい心づかいをしていることがわかった。
・日本語を教えるのは意外とたいへんということがわかった。これからも日本人と外国人を深めるために、次はわたしもがんばろうと思います。
・やさしい日本語はたくさんあることがわかったし、絵文字からいろいろな意味を見つけられることがわかった。これからも絵文字を大切にしたいし、次もがんばりたい。
・やさしい日本語は外国人だけじゃなく、しょうがいがある人や高齢者にも伝えることができることがわかった。
・これから外国人の友達ができたら、「やさしい日本語」を使って話してみたいです！
・絵文字の役割ってなんだろうと思っていました。でも勉強をしたとき、「絵文字は外国の人たちに伝わるように工夫しているんだな」と思いました。絵文字が耳が聞こえない人にもわかるんだと思いました。
・これから外国人に会ったらやさしい日本語を使って、あいさつをしたいと思いました。

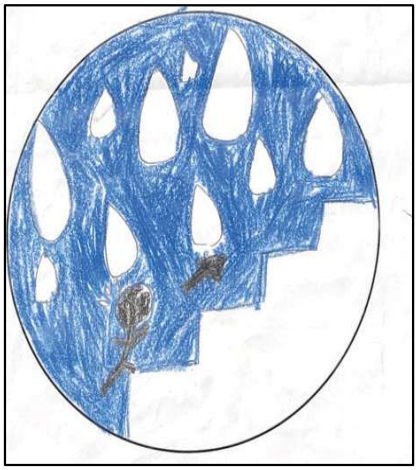
②続く単元「わたしたちの絵文字」では、グループごとに「言葉がわからなくても、だれにでも伝わる防災絵文字」を作成した。導入場面では、在住外国人3名（モンゴル、ミャンマー、ベトナム）に取材した動画を視聴した。主に、「自国の災害について」、「日本に来てからの災害経験（主に地震や台風）」、「防災絵文字作りに向けて子どもたちにアドバイス」をお話していただいた。取材では、「地震というものが最初はわからなかった」「テレビがないので、スマホからしか情報が得られない」「避難場所、水や食料の情報がほしい」といったお話を伺うことができた。また表記の仕方については「絵文字だけでなくひらがなや英語も必要」といった意見や、「漢字も一つの形として覚えているから漢字表記がよい」といった意見もあり、在住外国人の生の言葉は、子どもたちに防災絵文字作成に向けての意欲をより一層高めるものとなった。

その後の活動では、グループごとに「どのような場面・場所にするか」、「何を伝えるか」を話し合い、第1案を作成した。（下図参照）11月28日（金）現在、第1案を3名の在住外国人（モンゴル、ミャンマー、ベトナム）の方に見てもらい、感想やアドバイスをお願いしているところである。今後の予定では、アドバイスをもとに防災絵文字を修正し、完成を目指す。完成後は紹介動画を作成し、在住外国人や音更町役場の危機対策課に見てもらう予定である。

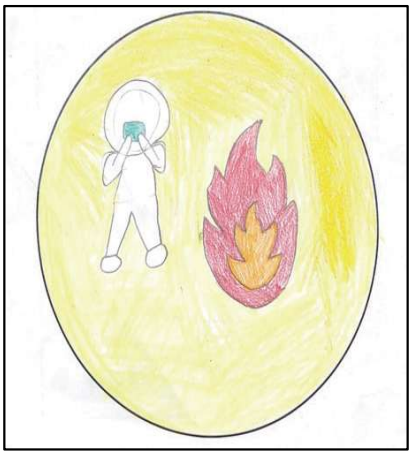
③まとめ

本単元の学習を通して、「絵文字」という切り口から、「多文化共生」「防災」「在住外国人の実態」について小学校3年生なりに迫れたことに手応えを感じている。子どもたちから「宗教」「ヴィーガン」といった言葉が出てきたり、絵文字や、やさしい日本語の役割について「障がい者や高齢者にも伝えることができる」という感想が出てきたりと、予想していたよりも多文化や多様性の話題が出たことに驚いた。子どもたちの興味関心をいっそう引き上げるとともに、言葉の壁を越えて情報を伝える重要性や、相手の立場に立って考えることの大切さを授業を通して伝えられたのではと感じている。「未来の担い手である子どもたちがいつか大人になったときに、多様な背景を持つ人々と互いに助け合い、やさしい心をもちながら安心してくらせる社会をつくっていってほしい。」そんな願いが本単元構成の原点である。子どもたちの心に本単元で学んだことが残ってくれたらと切に願う。今後も国際理解教育や開発教育について学び続け、実践を積み重ねていきたい。

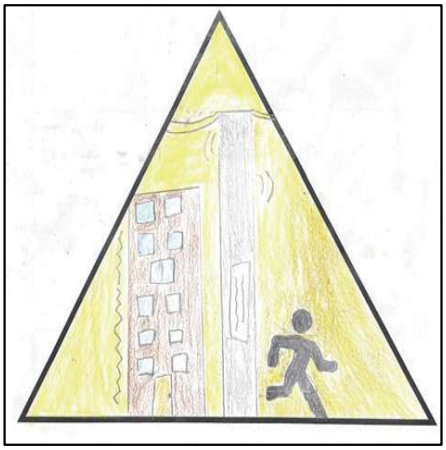
＜防災絵文字第1案（一部）＞①場所　②場面　③やさしい日本語



①高いところ
②大雨がきたとき
③高いところへにげてください



①教室
②火事が起きたとき
③ハンカチで口をおさえてください



①歩道
②地震が起きた時に最初にすること
③建物が倒れてあぶないので離れて

【参考資料】

＜教師のための参考資料＞

・「道内日本人初めて 500 万人下回る　外国人は 20％増加」、北海道 NEWS WEB 2025.8.6
https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20250806/7000077740.html

・「北海道内の人口 4.9 万人減 504 万人　外国人の増加率全国最大」、北海道新聞記事 2025.8.7
https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1196031/?utm_source=doshin_digital&utm_medium=internal&utm_campaign=recommended_news

（主な概要）

近年の日本社会において、少子高齢化や外国人労働者の増加が加速している。総務省の調査によると、2024 年 1 月 1 日時点の全国の日本人は前年比 90 万 8574 人減（0.75％減）の 1 億 2065 万 3227 人と 16 年連続で減ったという。北海道内の日本人は 27 年連続で減り、5 万 9896 人減（1.19％減）の 497 万 9204 人と減少数は 13 年連続で全国最多だった。一方、全国の外国人は前年比 35 万 4089 人増（10.65％増）の 367 万 7463 人で、調査を始めた 2013 年以降で最多であり、47 都道府県全てで増加した。道内は 1 万 738 人増（19.57％増）の 6 万 5621 人で、増加率は全国で最大である。

これらの事実から、日本の深刻な少子高齢化と、外国人労働者が急速に増加していることがわかる。北海道においては日本人人口の減少数が全国最多、在住外国人の増加率は全国最大と人口動態が全国の中でも特に極端な変化を遂げており、将来的な労働力不足がさらに深刻化すること、外国人労働者への依存が高まっていること、多文化共生社会の構築が急務であることが大きな課題として浮き彫りとなった。

・小学校学習指導要領解説総則編　文部科学省
・小学校学習指導要領解説国語編　文部科学省
・小学校学習指導要領解説総合編　文部科学省
・「すべての人にやさしいピクトグラム」、人権情報ネットワークふらっと
https://www.jinken.ne.jp/flat_class/2024/05/post_50.html
・「災害時外国人支援用ピクトグラム」、一般財団法人自治体国際化協会（クレア）
https://www.clair.or.jp/j/multiculture/tagengo/dis-pictogram.html
・道内在住外国人者数（住民基本台帳人口移動報告 2023.10 月末）、北海道庁ホームページ
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/9/4/5/0/6/3/9/_/参考 1-2%20 市町村別在住外国人数%282023.10 月_住民基本台帳%29.pdf
・「万博会場で食材を「ピクトグラム」表示　宗教や菜食主義に対応」、JAPAN FORWARD、2025.3.19
https://japan-forward.com/ja/navigate-food-menus-at-expo-2025-with-pictograms/
・ニュース＆メディア「【JICA 基金活用事業】「多文化＆防災まちさんぽ　in　おとふけ（全 2 回）」が開催されました」　2025.6.26
https://www.jica.go.jp/domestic/obihiro/information/topics/2025/1571286_66860.html
・「音更町　外国人もいっしょに考える防災」、NHK　北海道 NEWS WEB、2025. 6. 28
https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20250628/7000076503.html
・にほんごさぽーと北海道　https://www.nihongosupport-hk.or.jp/
・多文化共生社会企画展「知らない私に出会う　If I Were You/If You Were Me」、JICA 地球ひろば

＜学習者のための参考資料＞

・東京　2020　オリンピックスポーツピクトグラム　コンセプトムービー、Tokyo2020、2019.3.12
https://www.youtube.com/watch?v=BOjb9HYUhRc
・Breathtaking Pictogram Performance at Tokyo 2020 Opening Ceremony、Olympics、2021.7.24
https://www.youtube.com/watch?v=I9uVg-feZoM
・フードピクト　https://www.foodpict.com
・「ピクトグラムで食材を表現、多様な人々に伝える工夫」
https://www.youtube.com/watch?v=mdD1M13JO8Q
・「多文化共生ってなんだろう？」、JICA 九州
https://www.jica.go.jp/cooperation/learn/material/multicultural/index.html
（概要紹介：『ケース2災害時の避難所にてネパール出身・クリシュナさんの場合』）
※児童の実態を踏まえ、chatGPT でイラストを作成した。
・つながる世界と日本、JICA ホームページ
https://www.jica.go.jp/aboutoda/find_the_link/
・在住外国人のインタビュー動画、2025.9.7 撮影
・「ピクトグラムかるた」、日本規格協会グループ
・「キッズペディア　マークの図鑑」、小学館、2019
・「世界ピクト図鑑」、児山啓一、2021